

第2回協議会における意見と対応

令和6年3月14日  
第3回協議会

資料2

NO	項目	意見（記載ページは第2回協議会時の資料ページ）	委員	計画の 関連ページ	対応・確認案
1	取組の理由・背景	・パブリックコメントは市民の皆さん全員に計画案をお知らせする機会になるということで非常に意味のある事である。このため、長期構想【資料3】がP1「かわまちづくり支援制度」の概要から始まるのが気になる。「そもそも何のためにかわまちづくりをやるのか」を明確にした方がよく、その内容が入っていると読者の腑に落ちると思う。	佐々木 副会長	P1	・冒頭に『0. なぜ「境川かわまちづくり」なのか』という章を新設し、かわまちづくりに取り組む理由を示した。
2		・なぜ今「かわまち」なのかという点について、原点に帰り、そういうことをまず長期構想の中に入れ込んだ方がいいと思った。	大木委員		
3	計画の位置づけ	・「計画の位置付け」という項目に市の計画があるが、水辺で一番大切な「景観計画」が抜けているので記載をお願いしたい。	浅川委員	P6	・指摘箇所の本文、図に「景観計画（H21）」を追加した。
4	河川空間の 利活用状況	・「境川周辺の花壇の維持管理活動」については多くの市民が市と協働で実施しているため、個別の団体名の表現でなくとも良い。	後藤委員	P7	・個別団体名の記載について「市民団体等により」と修正した。
5	計画の基本方針	・川沿いに散歩道があり川遊びができたりして市民に愛されるという視点がなく、とにかく「イベント」「カフェ」のような印象がある。元町のことで言えば市民が散歩できるような道、設備を整えていただけるだけでもありがたいと思う。逆に、キッチンカーやカフェ等は市役所の前など、場所についての役割分担みたいなものがあるのではないかと思う。	清家委員	P10～12	・事業の概要として掲げている1) 修景整備未着手区間等の整備は、市民に愛される＝市民の親水性の向上を重要な視点として位置付けており、さらに3) 賑わい創出のための利活用促進は、河川空間を活用して新たな価値を生み出すため、これまで実績が少ないカフェ等の誘致を掲げている。 ・市民の親水性とバランスを取りながら賑わい創出を図る観点から提案しており、今後、社会実験を行いながら地域の実情に即した賑わい創出を図っていく。
6		・どうあるべきかというのは今までも数年間やってきてはいるが、確かになんでもカフェやにぎわいということだけになってもおかしいので、場所に相応しいものとする必要もある。	陣内会長		
7		・いろんなソフト施策のお話をされているが、かわまち計画の中にはハード施策もある。ただしハード施策は、やはり時間がかかる。その中で、今皆さんがやっている事業、プラス営利活動をそこに取り入れていくことによって、そのハード施策の一助にもなればという思いもあるので、そういう面も含めながらこれからご議論をいただければと感じた。	大木委員		
8	河川空間利用にかかわる課題	・境川テラスの沈下以外に、地盤沈下によって内水排除が非常に困難になっている。高潮時の大雨で道路冠水等が起きるので、そのあたりのニュアンスも入れておけば、市民が境川が大切であることがよくわかるのではないか。	堀井委員	P10	・中流部（中町地域）の課題として、内水排除の内容が記載済みである。
9	運営体制	・合意形成や調整のための運営組織を協議会で担うのは難しいので、そうではない下部組織で運営会社みたいなものを立ち上げていかなければいけないと思うが、良い事例があれば参考に教えていただきたい。	浅川委員	P13	・R6年度の社会実験期間を通して運営体制を検討していく。 ・資料5において、将来的には、境川の利活用の調整を図る組織を設置することを念頭に検討を進めることを示した。
10		・運営会社を募集したり、交渉したりというのは、結局、行政が受け皿、推進役にならざるを得ないのではないか。	陣内会長		
11	施策 (水・自然環境)	・海浜部も計画の対象範囲に含めたことが大きな判断である。川と海と陸が連続しているというのが昔の浦安の特徴で非常に大切なことだと思う。多自然川づくりや干潟再生といった取組をもう少し強く出していただくと良い。	後藤委員	P17 P28	・水・自然環境の基本方針として「かつての境川の自然環境と生物の再生！（楽しみ、学びの場に）を掲げており、ソフト施策として水質浄化や多自然川づくりへの取り組み等のソフト施策を掲げている。 ・他方、海浜部を含む境川河口部の市有地の整備については、市民から様々なご意見をいただいております。今後、これらの意見を踏まえ、民間活力を活用しながら整備内容を決定していくこととしているため、「いきものに配慮した護岸やイベント・水上アクティ実施のための栈橋等」という形で干潟再生に限定しない記述内容としている。 ・指摘を踏まえ、「境川河口部市有地の整備（隣接する海岸保全区域内）」の記載内容に「市民意見を反映し」を追加した。
12		・第1回協議会資料では、新町地域について、海浜部で「多自然型水辺整備」ということが書かれていた。そこはしっかりとどこかに書き込んでおく必要があると思っている。	陣内会長		
13		・「舫う（もやう）」という言葉は浦安の言葉として重要で、キャッチフレーズとして強い印象を与えることができるのではないか。 ・タイドプールや干潮時に生き物が残る干潟的な環境を大事にすると、子供たちが観察し学習しながら昔の境川や原風景がどうだったのかと考えることにつながり、非常に重要である。	後藤委員		
14		・川の中に干潟がもっとできていいかもしれない。	陣内会長		
15		・長期構想【資料3】のP29「明海・高洲公園エリア整備構想」の記述について、第1期境川かわまちづくり計画【参考資料2】の同箇所、P22「整備の実現方策」と比較し整合が取れていない。【参考資料2】の方が「この計画では、入江上の海浜部は、いきものに配慮した生物共生護岸とし、」とはっきり書いてあるので、支障がなければ長期構想の方にも書き込んでいくと良い。陸と海が連続できる唯一の場所なので、言葉だけでも入れてほしい。	後藤委員	P30	・「第1期境川かわまちづくり計画」の記載内容と同じ内容とした。

NO	項目	意見（記載ページは第2回協議会時の資料ページ）	委員	計画の 関連ページ	対応・確認案
16	施策 (歴史・文化)	・社会実験メニューとして記載されている観光遊覧事業について、範囲を河口部から周辺 の海域まで広げて意欲的にできるようにできないか。川と海とで船の揺れ方が違う、など川と海の違いも体験できる。社会実験という、実現できる範囲ということで狭まくなりがちだが、「今後検討していく」のように少し膨らます表現を入れられると良い。	後藤委員	P18	・舟運については、今後の社会実験による事業性の確認や海域の状況等を踏まえ、広がりを検討していく。
17		・その他の全国のかわまちづくりでも舟運というのは多い。もっと船がある風景があり得るのではないかとと思うが、トーンとして計画に表現されていないように見える。。	陣内会長		
18		・新橋周辺については、千葉県による緩傾斜護岸の整備が行われ、市でも市有地を活用した防災広場の整備に向け用地買収も進んでいる。旧大塚家住宅や旧宇田川家住宅といった歴史的建造物を活かした整備が進むと非常に浦安の歴史を感じる水辺空間になると思う。「歴史的な街並みを含めた水辺空間の整備」のような記述を入れられないか。	浅川委員	P24	
19		・歴史的な街並みは、本当に浦安の一番の原点であり、シンボリックである。水辺から背後まで含めて総合的に、面的に価値づける、意味づけることは大切である。	陣内会長		
20	施策 (水辺・水面利用)	・「カフェテラスin境川」が「活用状況」と「ソフト施策」の両方で出てくるため、誤解や不自然な印象を与えないように書き方を工夫した方がよい。「イベント自体が境川を中心とすることが大事」ということを言わないと、単にイベントを復活させればよいと解釈されかねない。「復活」というと以前のものをそのままやればいいというイメージを持ちやすいが前回より大きくなってよい。	増田委員	P19	・タイトルは変更せず、記載内容についてご意見を踏まえ、「認知度も高く、賑わいづくりにも大きく貢献していたことから、さらに充実したイベントの復活を検討する。」と修正した。
21		・「カフェテラスin境川」という名前は、市民の方々にも寝付いているのではないかとと思うので、その名称は残した方がよい。	横山委員		
22		・市民に誤解され、批判されてしまうこともあるので、書き方について慎重に検討をお願いする。 ・市民に定着しているというのは大変心強いが、特定のイベントのみでなく、より広く読み取れる表現にしても良い。	陣内会長		
23	地域の合意形成	・新町地域でオープンカフェ等を計画しているエリアは住居と近いので、住民が本当に賑わいを求めているのか気になる。 ・また、どこでもそうだが声の大きい方が非常に強いクレームを言うときにそれが本当のマジョリティーなのかどうか、どう向き合うのか、についても対策をとらなければいけない気がする。	鈴木委員	—	・R6年度の社会実験期間を通し、地域とコミュニケーションを丁寧にとりながら、検討を進めていきたい。
24		・元町地域でオープンカフェ等を計画しているエリアも、住居と近接しているため、何かをやるとなるとネゴシエーションや「皆さんの思いをどうやって作っていくか」というプロセスが非常に重要となる。別の事例でも町会長が説得に苦勞して、協議会開始までに1年以上、実現までに1年かかったというところもある。時間がかかっても、しっかり社会実験の間にいろいろ検討していくことが重要と思う。	陣内会長	—	
25	社会実験、活動内容	・「利活用状況」に既存の活動が記載されているが、これらの活動が継続発展していくのか、あるいはマルシェやキッチンカー等、新たな取り組みを実行していくのか。 ・今後どのような検討がどんな組織でどのように繰り出されていくのか、という点が少しわかりにくい。	鈴木委員	—	・運営体制のイメージができるよう資料5で直近で行う予定のイベントにおける運営体制を示すとともに、将来的な運営体制検討の方向性を示した。
26		・次年度の1年は社会実験を繰り返していくということだが、プログラムやイメージ、コンテンツがまだ紹介されていないので、わかりにくいということに関係すると思う。	陣内会長	—	
27		・計画の目的や基本方針について、発信側の願いが反映されている書き方になっているが、これを活動やイベントに落とし込むときに、参加した人の価値につながるような言葉に翻訳する必要がある。 ・社会実験の評価は単一の視点ではなく、例えば「健康寿命の延伸」、「親水性」、「交流」、「観光」等、様々な価値を組み合わせた評価が重要と考える。様々な価値の評価がある中で、どのように評価していくのが気になった。	鈴木委員	—	